

「音」と「文字」を 連動させる

「キッズクラウン英和／和英／英和・和英辞典」編者

下 薫

今回の辞書



キッズクラウン
英和／和英／英和・和英辞典
三省堂／2003・2004年

一 子どもが英語辞典と出合うとき

児童英語教室で小学校三年生に初めて『キッズクラウン英和辞典』を渡したときのことだ。学校で国語辞典の使い方を学んでいるこの学年は、辞書に関心の高い子どもが多く、各々目を輝かせながらページを開き始めた。

子どもたちは「反対からページをめくるんだ」「英語と日本語の両方が書いてある」などと国語辞典との違いを口々に言った後、「あかさたな、じゃなくてABCって書いてある」と、だれかが見出しのABCの文字に気がつくくと、やがて全員でABCの歌を歌いながらページをめくり始めた。

二 「音」から「文字」へ

児童英語の学習者は、歌を歌い、絵本の読み聞かせを聞き、会話をするなど、英語を「聞く」「話す」活動に慣れてくると、やがてアルファベットに興味を持ち始める。小学校中学年になって、学校でローマ字を習い出すとその関心はますます高まる。この時期に合わせて、クラスでは少しずつ文字に親しむ活動を導入する。それは単語の読み方を教えたり、アルファベットをノートに書かせるような「文字学習」ではない。「好きな絵本を読みたい」「友達に誕生日カードを書きたい」「ゲー

ムのやり方を調べたい」など、自ら英語で「読む」「書く」をしたいという気持ちを生かす活動である。そんな子どもたちをサポートする教材として『キッズクラウン英和／和英／英和・和英辞典』（以下『キッズクラウン』）がある。

三 『キッズクラウン』の特徴

小学校英語の必修化に先立ち、現在全国の小学校で英語活動が実施されている。文部科学省が提示する小学校英語活動の目標をまとめてみると、(一) 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ、(二) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る、(三) 言語や文化について体験的に理解を深める、とある。¹⁾ この三つの目標に沿って『キッズクラウン』の特徴を述べていきたい。

(一) 音声に慣れ親しむ

英語の音声に慣れた子どもたちが初めて使う英語の辞典は、読みやすく、引きやすいのもちろんのこと、「音」と切り離された「文字」だけの辞典であってはならない。『キッズクラウン』は、「文字」に触れていても常に「音」が聞こえてくる工夫としてCD音源を付けた。このCDには歌やチャントだけでなく、用例の「リズム読み」と会話例が収録されている。歌はalphabet(アルファベット)

の項に「A B Cの歌」、bridge (橋) に「ロンドン橋」など、全部で三十曲入っている。用例の「リズム読み」とは例えば、bag (バッグ) に「a paper bag, a school bag, a handbag (紙袋、学校かばん、ハンドバッグ)」と小学生の身の回りのバッグを三つ並べ、リズムを付けた音声で収録した。またball (ボール)では「catch the ball, throw the ball, bounce the ball (ボールをとる、投げる、はずませる)」とボールに関する動詞と組み合わせた用例になっている。子どもが文字を読むうとすると、今まで言えていた自然な発音やリズムが崩れ、読む速度も遅くなる。「リス



ム読み」は三つの短いチャンク(単語の固まり)を、強勢を意識し、リズムをつけて一気に言うことで、「音」と「文字」を連動させているのだ。

(二) コミュニケーション能力の育成

CDには会話例も多く収録されている。birthday (誕生日)では、「誕生日はいつですか?」という用例の他に、イラストには誕生日パーティーの場面が描かれ、そこに関連語が紹介されている。さらにパーティーの場面で使える会話例がCDに収録されている。単語は、実際に会話で使えるものを意識して選び、その一つの単語を、句、文、会話レベルへと発展させる工夫をした。

(三) 多文化理解の調べ学習

英語の辞書を読む子どもたちは、新しい言葉や知らない文化との出会いをワクワクして待っている。sound (音)ではAhchoo. (ハクション)・Oops (おっと)・Ouch. (痛い)・Uh-huh. (うん)などの言葉の違いを面白がり、bread (パン)ではBread Around the World (世界のパン)としてtortilla (トルティーヤ)・nan (ナン)・taco (タコス)などいろいろなるパンを使った料理を調べられる。

世界の文化の違いばかりでなく、global issues (世界が共通に抱える問題)についても調べられる。recycle (リサイクル)では、The 3R's (リサイクル、減らす、再利用する)

とともに「PET bottle (ペットボトル)、cardboard (ボール紙)などゴミに関する単語が掲載されている。その他、巻末のテーマページには日本の祭り、食べ物、スポーツなど、日本文化を英語で紹介するための単語が載っている。

四 「なぜ?」の気持ちを大切に

先日、五年生の子どもが「How do you say koryu in English? (恐竜は英語で何と言うの?)と聞いてきたので「I look it up in your dictionary. (辞書を調べてみて)」と言って和英辞典を渡した。すぐに「きょうりゅう」の項を見つけて、「ダイノソー」とカナ表記を読みながら発音し、「I like dinosaurs! (僕は恐竜好き!)」と教えてくれた。子どもの英語のクラスは「What?」「Why?」「How?」の質問であふれている。新しい言葉や文化と出合ったときに出てくるこの「なぜ?」を大切に、子どもが自分で調べ、答えを見つめる環境づくりを心がけていきたい。

*1 文部科学省HP <http://www.next.go.jp>

しも かおる 上智大学外国語学部卒、コロンビア大学ティーチャーズカレッジ英語教授法修士課程修了。マジカルキッズ英語研究所代表。